

新青丸共同利用研究航海報告書

- * 航海番号 KS-24-21次研究航海
- * 航海名称 (和文) 福島沿岸海域での多種類の人工放射性核種動態解析および生態系への環境応答
(英文) Dynamics and bioavailability of radionuclides in the waters off Fukushima
- * 観測海域 (和文) 常磐沖、三陸沖
(英文) Off Sanriku and Joban
- * 航海期間 令和6年 10月19日(土)～令和6年 11月 1日(金)
- * 出港日時・場所 10月19日 14時 仙台塩釜港
- * 入港日時・場所 11月1日 14時 横須賀港
- * 寄港期間・場所 10月25日～26日・仙台塩釜港

* 研究課題

新青丸 KS-24-21次航海は、2011年に発生した福島第一原子力発電所事故によって海洋に放出された放射性物質について福島周辺海域における放射能レベルの現状把握としてのフォローモニタリングの役割とその放射能動態の科学的理解を深めること、さらに ALPS 処理水のためのモニタリングを目的としており、震災と直接関連するものである。

* 主席研究員 (氏名・所属・職名・e-mail アドレス ◎は@)

高田兵衛・福島大学環境放射能研究所・准教授・h.takata@ier.fukushima-u.ac.jp

* 研究内容、主調査者 (e-mail アドレス)、観測項目

当航海は、10月19日に仙台塩釜港を出港し、下記の観測を実施した。

- (1) CTD 観測及び海水採水、高田兵衛(h.takata@ier.fukushima-u.ac.jp)
- (2) プランクトンネット (NORPAC、ORI) による生物採取、西川淳
- (3) マルチプルコアラーによる採泥、松枝誠

海水、海底堆積物、プランクトン等を採取し、事故由来の放射性核種濃度を陸上施設で分析する。塩分・水温、濁度等の物理学的項目、プランクトン種組成等の生物学的項目、天然放射性核種濃度等の地球化学的項目を総合的に調査し、物質循環研究の観点から事故由来放射性核種の動態を明らかにする。

* 乗船研究者氏名・所属・職名

高田 兵衛・福島大学 環境放射能研究所・准教授
乙坂 重嘉・東京大学 大気海洋研究所・准教授
西川 淳・東海大学 海洋研究所・教授
津旨 大輔・筑波大学 放射線 アイソトープ地球システム研究センター・教授
戸田 亮二・東京大学 大気海洋研究所・技術専門職員
松枝 誠・日本原子力研究開発機構 廃炉環境国際共同研究センター・研究員
鈴木 崇史・日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター・研究主幹
剣持 瑛行・東海大学 海洋研究所・特定助教
亀山 星奈・東海大学 大学院海洋学研究科・大学院生
小峰 あかり・東海大学 海洋学部 海洋生物学科・学部生
Jiang Youwen・東京大学 大学院新領域創成科学研究科・大学院生
浅尾 宗洋・筑波大学 生命環境学群地球学類・学部生
Godse Nimish Sudhir・筑波大学 生命環境学群地球学類・学部生
四宮 裕太・マリン・ワーク・ジャパン・観測技術員

* 航跡・測点図



